

映画「けったいな町医者」「痛くない死に方」などで知られ、阪神淡路大震災後の尼崎市を拠点に、人びとの「生と死」の最前線に立ち続け、ことし8月末、第一線を勇退した作家の長尾和宏氏(65) Ⅱ写真Ⅱが、11月29日に株式会社カナオカ機材(七里和昭社長)が主催する第190回CS元気活力塾の講師を務め、大阪市中央区の道頓堀ホテルに集まった約100人の参加者を前に、「悪徳医療にだまされない方法」と題して語った。

第190回CS元気活力塾

悪徳医療にだまされない方法

作家・医学博士 長尾和宏氏

昭和33年、弘法大師
正海のふるさと香川県
普通寺市で生まれ、陸
士自衛官だった父の転
勤にともない兵庫県尼
崎市・伊丹市で少年期

を過ごした長尾氏は、
40代半ばで自ら死を選
んだ「父の最期」をき
っかけに医師をめざし上
京。新宿区の東京医科
大学時代は、学業のか
たわら期間工などのア
ルバイトで糊口をしの
ぎ、卒業後は大阪大学
で糖尿病をはじめとし
た生活習慣病を担当す
る第2内科医局に入局
するとともに、救命救
急医師として急性期医
療の現場に立った。

救急車のハッチが開
き、ストレッチャーが
引き出される。救命士・
看護師らとともに患者
を診察台に移し、心肺

停止状態の患者に「分
かりますか」と呼び掛
ける。看護師が点滴の
ルートを取り、みずか
らは気道確保…。

過酷を極める急性期
医療の現場で、過剰な
負荷に耐える患者…。
平成7年の阪神淡路大
震災発生時、分刻みで
搬送されてくる重症者
を不眠不休で診た長尾
氏は、その年復興に向
けて立ち上がることに
する。尼崎市で長尾クリ
ニックを開業。みずか
らハンドルを握り、通
院が困難な高齢者や重
度の障がいを持つ人び
とを訪問する姿がメ



ディアに取り上げら
れ、著書や映画で広く
知られることに。
平成から令和へ、中
国武漢から瞬く間に世

界を席巻した「新型コ
ロナウイルス感染症」。
クリニックの駐車場が
発熱外来の順番を待つ
患者で溢れるなか、長
尾氏は早い段階から季
節性インフルエンザと
同様、町の診療所など
でも受診可能な「第5
類相当」への引き下げ
を訴え続ける。保健所
が機能不全を起こすな
か、自宅で重症化する
患者のもとへ走った。

量に生み、医療そのも
の「退化」に繋がっ
ていると指摘する長尾
氏は、この日「高度先
進医療」の名を借りて
高額の保険外診療を展
開する「悪徳医療」の
裏側と、不安に付け込
む手法に「だまされな
い方法」を解説。
最後に、みずからが
長年実践する「歩く」
「歌う」ことがもたら
す効果・効果を挙げ、
一番大切なのは、この
日のようにみんなで集
まって「笑う」ことだ
と強調した。
(池内文蔵)

令和5年12月15日(金)